



EIGHTYDAYS

サステナブルな観光へのビジョン

Eighty Daysでは、日本各地のまだ十分に観光の恩恵が行き届いていない地域において、持続可能な観光の機会を創出し、地域社会に長期的な経済効果をもたらすとともに、地域住民と旅行者との本質的な文化交流を促進し、地域の伝統文化や自然環境の保全に貢献することをミッションとしています。このミッションを実現するため、地域住民と旅行者の双方にとって観光が良い影響をもたらすものとなるよう、強い倫理念に基づいた観光のあり方を追求しています。

地方経済への影響

- 「ゴールデンルート」には含まれない、いわゆる定番ではない観光地へ足を運ぶ際、旅行者にとって特別で忘れがたい体験となる最大の要素のひとつは、現地の人々と直接出会い、会話を交わせることだと考えます。そして、この体験に欠かせない存在がローカルガイドです。旅行者が訪れる地域への知見を高め、深く味わうためにガイドは重要な存在であり、そのガイドの質が口コミや再訪につながる大きな要因となります。当社では、可能な限りその土地に根差し、地域への情熱と豊富な知識を持つローカルガイドを起用しています。
- 日本在住の方々にも国内ツアーへの参加を呼びかけています。特に、日本を愛して移住してきた国外出身の在住者は、第二の故郷である日本の、まだあまり知られていない地域に強い関心を持っています。こうしたさまざまな立場の人々が旅を通じて出会い、つながることで、これまで存在しなかったような新しい地域コミュニティが生まれることを期待しています。
- 私たちのツアーでは、可能な限り地元の食材を使った料理を提供する施設を起用しています。地元で採れた食材を使用しているレストランを探し出し、積極的に連携しています。これにより、訪問先の地域経済を活性化することを目指しています。また、お客様を地域の市場にご案内し、地元の生産者と直接交流したり、新鮮な食材を購入する機会を設けています。同時に、地元の食材を使った料理教室への参加もおすすめしており、地域の味を実際に体験し、理解を深める機会となっています。
- 私たちは、東京都主導の福島復興プロジェクトの公式旅行代理店として、2011年の震災以降、注目が薄れてしまった福島の魅力を再発見し、訪れてもらうためのツアーを企画・実施しています。
- また、地域自治体や草の根団体と密接に協力しながら、各地の祭りへの参加、地元工芸家のアトリエ訪問、伝統工芸の体験など、唯一無二の旅の体験を創出しています。
- 当社代表のグランジェ七海は、地域振興における観光とソーシャルビジネスの可能性に関して、地方自治体の主催する講演会などで定期的に登壇しています。2019年には、ノーベル平和賞受賞者ムハマド・ユヌス教授の来日に合わせて開催された「未来社会×ソーシャルビジネス」カンファレンスに参加し、関西地域の観光促進に関する提案を行いました。この会議では、参加者に向けて2025年に大阪市で開催される大阪・関西万博への意見交換も行われました。彼女は、新潟県にある佐渡島のような、まだ十分に知られていないものの大きな可

能性を秘めた地域を紹介し、国内外からの観光を通じて地方の魅力を広めていく、という当社のビジョンを説明しました。

動物福祉への取り組み

- 観光業者として、旅行によって動物やその自然環境に害を与えたり、健康や福祉に悪影響を及ぼしたりしないようにすることに、責任があると考えます。動物に対して倫理的な視点を持って接することが動物福祉につながると考え、ツアー中にいかなる動物も虐待されることのないよう、最大限の配慮をしています。
- 私たちは、環境保護を目的とする地元のプロジェクトや団体を積極的に支援しています。例えば、弊社が提供する「東京アイランドホッピングツアー」では、現地のエコツーリズム会社「Dive Station Base」と密接に協力しています。この団体の創設者である草地祐樹氏は、学校や病院を訪問しながら、野生動物の保護やエコ保全の重要性を伝える活動に取り組んでいます。
- 飼育下・野生問わず、動物とのふれあいや観察が含まれるすべての活動において、現地パートナーと連携し、関わるすべての動物の健康と安全が守られるよう配慮しています。私たちは倫理的な体験のみを推進し、動物福祉を損なうような観光行為があれば、それを直ちに見直し、中止する方針です。
- 野生動物の捕獲、消費、展示、販売、取引などは、地域・国内・国際的な法令に基づいた持続可能な活動である場合を除き、一切行いません。

環境への配慮

- 私たちは、野生動物とその生息地を守るための活動を積極的に行っています。現地のエコツーリズム会社と密に連携し、私たち自身も訪問者も、生き物やその生息環境に悪影響を与えることのない行動をとるよう努めています。
- 野生動物を敬意をもって観察・体験できる方法を提供できる現地パートナーと提携しています。
- 日本各地の自治体と生産者が連携し、海外からの訪問者に向けた特別な食体験の場を提供しています。私たちは、地元の食材を活用したレストランを積極的に探し出して紹介しています。
- 気候変動の深刻化にともない、今後も環境への負荷を軽減するために、環境意識の高い取り組みを常に模索・導入していきます。
- オフィスで使用するコピー用紙は、アスクルの「1 Box for 2 Trees」プロジェクトを通じて購入しています。このプロジェクトは2010年に開始され、紙1箱の製造につき、インドネシアの森林に2本の木を植えるという取り組みです。
- 持続可能な観光事業者として、資源の消費を抑え、カーボンフットプリント(炭素排出量)を削減する努力の一環として、カーボンニュートラルな電力会社「ハチドリ電力」を利用しています。この会社は、自然エネルギーを使った発電事業者への寄付も行っています。
- 私たちは、旅行先が持続可能な交通手段でアクセス可能であることを大切にしています。そのためお客様には、可能な限り公共交通機関(ローカルバス・電車・地下鉄など)を利用するよう促しています。これにより、CO₂排出量の削減と、より深い地域体験が同時に可能になります。
- 弊社が提供する「出羽三山ツアー」では、古来の自然道をハイキングし、地域の交通機関を使って旅を楽しむ構成となっています。

- また、「プラスチック・フリー」の旅を推進しています。お客様には、マイボトルやマイカトラリー（箸・フォーク・スプーンなど）をご持参いただくようお声がけし、使い捨てプラスチックの削減を目指しています。
- 「サムライエ芸ツアー」では、地元の小さな水神社を訪れます。この神社には、数時間かけて水を汲みに訪れる人がいるほど、清らかな湧水があります。マイボトルをお持ちの方は、そこから天然水を楽しむことができます。
- 「佐原の大祭体験ツアー」では、ただ祭りを見物するだけでなく、地元の人々と一緒に実際に参加し、秋の収穫祭を体験するという、非常に貴重な機会を提供しています。全国各地の祭り主催者と広範なネットワークを築いており、参加型・体験型の特別な旅を実現しています。
- 私たちは常に、地域住民にも恩恵をもたらす新しい体験の可能性を模索しています。たとえば、日本の先住民族であるアイヌ民族は、独自の文化や歴史を世界に伝える努力を続けています。私たちは今後、アイヌ文化を紹介するツアーを企画し、英語対応可能なアイヌのガイドと協働することを目指しています。
- ツアー開始時には、訪問予定地域に関する詳細な情報と、現地ガイドによるオリエンテーションを設け、出発前に質問や不安を解消できるよう努めています。
- 私たちの提供するツアーにおいて、ガイドは通訳や案内にとどまらず、現地文化への理解を深め、訪問地での感動を高める“文化の橋渡し役”としての役割を果たします。

省エネルギー・節水・廃棄物削減方針

Eighty Daysでは、環境負荷の低減および天然資源の保全を目的として、エネルギー効率の継続的な改善、節水、廃棄物の削減、ならびに資源の責任ある利用に取り組んでいます。

これらの目標を達成するため、以下の取り組みを実施しています：

- エネルギー：使用していない電気機器や照明は、営業時間外を含め、こまめに電源を切ることを徹底しています。また、パソコン、モニター、プリンターには省エネルギー設定を適用し、空調使用時にはドアや窓を閉めるよう努めています。
- 水：従業員に対し、水資源の適切な利用を促すとともに、使用後は蛇口が確実に閉まっていることを確認し、トイレの大小切替式洗浄機能を適切に使用するよう推奨しています。
- 紙：両面印刷を標準設定とし、電子FAXを含むデジタルコミュニケーションを優先しています。また、使用済みの紙は、可能な限りリサイクルまたは社内用途に再利用しています。
- 廃棄物の分別：ペットボトル、可燃ごみ、不燃ごみ、缶、段ボールなど、地域の分別ルールに従ってオフィス内の廃棄物を適切に分別しています。
- 廃棄物の削減：不要な消費や使い捨て製品の使用を避け、可能な限り資材の再利用・リサイクルを行うよう従業員に推奨しています。
- 再利用可能な製品：使い捨て製品による廃棄物を削減するため、マグカップ、ボトル、バッグ、食器類など、繰り返し使用できる製品の利用を推奨しています。
- 梱包材：配送時に使用された緩衝材などの梱包資材は、可能な限り再利用しています。新たな梱包材が必要な場合は、必要最小限にとどめ、紙製のもの、再利用可能またはリサイクル可能なものを優先しています。

すべての従業員が、オフィスにおける環境負荷の低減に取り組むとともに、継続的な改善の機会を積極的に見出すことを求めています。

持続可能な調達方針

Eighty Daysでは、製品やサービスの調達において、持続可能性への配慮を意思決定に取り入れています。品質、安全性、機能性、入手可能性、コストなどの要件を満たす適切な選択肢がある場合には、より持続可能な製品およびサプライヤーを優先します。

主な調達方針は以下のとおりです：

- 地域からの調達：可能な限り、地域の製品およびサプライヤーを優先します。
- 持続可能な製品：再利用可能、リサイクル可能、生分解性、再生素材使用など、環境負荷の低い製品を優先します。
- 梱包：必要最小限の梱包、再利用・リサイクル可能な梱包、その他環境に配慮した梱包を優先し、不要な使い捨てプラスチックの削減に努めます。
- 資源効率：耐久性の高い製品を優先し、新たに購入・交換する前に、再利用、修理、詰め替えなどの選択肢を検討します。
- 責任あるサプライヤー：情報が入手可能な場合には、環境面・社会面において責任ある取り組みを実施している、または社会的に認知されたサステナビリティ認証を取得しているサプライヤーを優先します。
- 倫理的な調達：サプライチェーン上の人権リスクに関連する製品、または保護対象・絶滅危惧種に由来する製品の調達を避けます。
- 紙製品：再生紙または責任ある方法で調達された紙製品を優先します。
- 省エネルギー機器：電気機器の購入・交換時には、品質、機能性、コスト、投資効果を考慮したうえで、国内で適用可能な基準に基づき、省エネルギー性能の高い製品や消費電力の少ない製品を優先します。

持続可能な交通方針

Eighty Daysでは、可能な限り持続可能かつ効率的な交通手段を優先することで、ツアーに伴う移動による環境負荷の低減を目指しています。

交通手段を計画する際には、以下の事項を考慮します：

- 可能な限り、鉄道をはじめ、地下鉄、路線バスなどの公共交通機関を優先します。
- 不要な移動やそれに伴うCO₂排出量を削減するため、効率的かつ直接的な移動ルートを優先します。
- 短・中距離の移動については、適切な場合には自家用車や国内線航空便の代わりに、鉄道やバスの利用を検討します。
- グループの人数に適した車両を選定し、選択可能な場合には、より新しく、燃費性能に優れた車両やCO₂低排出車両を優先します。
- 移動時間、アクセシビリティ、コスト、快適性、運営上の要件、お客様のニーズと併せて、持続可能性についても考慮します。
- 市内移動や送迎については、適切な場合には公共交通機関の利用を推奨します。

お客様から特別なご要望がある場合、または公共交通機関の利用が現実的もしくは適切でない場合には、専用車等の手配を行う場合があります。今後も、交通に伴うCO₂排出量を削減し、必要に応じて適切な方法で補償するための取り組みを継続的に検討していきます。

従業員の持続可能な通勤・出張方針

Eighty Daysでは、従業員の通勤および業務上の移動に伴う環境負荷の低減を目指しています。従業員には、可能な限り公共交通機関または徒歩での移動を推奨しており、公共交通機関を利用する従業員については、通勤交通費を全額支給しています。

業務上の移動についても、可能な限り自家用車や航空機の利用を控え公共交通機関および鉄道を優先することとしています。また、対面形式での会議が必要でない場合には、オンライン会議を推奨し、不要な出張や、それに伴うCO₂排出量の削減に努めています。

児童保護

- 近年、地域住民とのふれあいを伴う体験型観光へのニーズが急速に高まっており、それに伴い、子どもや若者の身体的・精神的な健康および福祉に関わるリスクも増加しています。私たちは、教育旅行や学校訪問プログラムにおいて、東京観光財団(Tokyo Convention & Visitors Bureau)をはじめとする全国の関係機関と連携し、「Discover Tokyo」プロジェクトの一環として国際文化交流の推進に取り組んでいます。あわせて、すべての子どもおよび若者の安全と安心を守ることに力を入れています。
- Eighty Days は、子どもに対するあらゆる虐待、操作、権力の濫用や支配行為を断固として非難し、子どもの安全を脅かす一切の行為・行動に対してゼロ・トレランス(完全不容認)方針を掲げています。

児童労働・強制労働に関する方針

Eighty Daysでは、自社の事業活動およびサプライチェーンにおける児童労働、強制労働、その他の意思に反する労働を一切容認しません。

宿泊施設をはじめとするすべてのサプライヤーに対して、適用される労働関連法令を遵守するとともに、子どもの権利および福祉を尊重し、保護することを求めています。

法令に基づき若年労働者を雇用する場合には、適用される法令に従い、適切な労働条件および必要な保護措置が確保されなければなりません。

Eighty Days 経営責任者
Nanami Granger
CEO and Founder